

ゴルフの基本的なルールは「あるがまま」だ。可能な限り、ボールをあるがままの状態で、プレーしなければならぬ。しかし、実際には、抜け穴がたくさんある。どうやって打てない場所では、ボールの移動が許される。なくした場合もニューボールを使える。もちろんペナルティー打を払うが。

よし！ ならば、こんなトーナメントはいかがだろう？

競技の始めに、オフィシャルからそれぞれの選手に一個のボールが渡される。何があるうと、このボール以外は使ってはならない。ティーアップとホールアウト以外で、ボールに触ってはならない。それこそ「あるがまま」なのだ。もしボールをなくしてしまつたら、どうなるか？ その時点で失格、つまり競技終了となる。

「池に落ちたら？」。打たない限り、はい終わり。「ブツシユの中に入った」。ボールを永遠に探されても困るので、制限時間を設けよう。「ボールが裂けた！」。どうぞそのまま打って下さい。

さあ、こんなトーナメントが3日間、開催されるのだ。選手の緊張ぶりが目に浮かぶ。たとえどんな良いスコアで試合が進んでいても、たった1回ボールをなくしただけで、ジ・エンドなのである。最終日の18番ホールまで、どれくらいの数 of 選手が生き残って

いるかの戦いと言っていていいだろう。

その昔、子供たちは、たった一個のボールを追いかけて街中や野原を駆け回っていた。そのボールが、雨どいなどに引っかかってしまつたら、それで遊びは終わりだったのである。だからボールをとて大事にして遊んでいた。このゴルフで、あの遊び心を徐々に思い出していただこう。

サバイバルゴルフ、年に1回でもいいから、やつてもらえないかな？ もし私が出場したら……1番ホールで消えるだろうな。

【朝日新聞・マリオン】

2007年3月7日掲載